



2021年3月期第2四半期 決算説明会

東京製綱株式会社

(TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.)

2020年11月27日

1. 2021年3月期第2四半期決算概要

2. セグメント別の状況

3. 成長戦略の進捗

1-1. 2021年3月期第2四半期 決算ハイライト

(金額:百万円)

	2020年3月期第2四半期		2021年3月期第2四半期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	30,979		25,588		△5,391	(△17.4%)
営業利益	△67	(△0.2%)	△867	(△3.4%)	△800	—
経常利益	11	(0.0%)	△851	(△3.3%)	△862	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△491	(△1.6%)	△749	(△2.9%)	△258	—

1-2. 2021年3月期第2四半期 決算のポイント

新型コロナウイルスによる需要減は1Qで底を打ち、2Qは回復基調にあるものの、1Qの需要減少の影響大きく、減収減益

売上高 255億88百万円 [前期比 Δ 17.4%]

2Qではタイヤコードなど自動車関連は回復傾向にあるが、道路安全施設関連での工事着工遅れなどが影響し減収

営業利益 Δ 8億67百万円 [前期 Δ 67百万円]

1Qのタイヤコードの販売減や減産に伴う工場生産性の悪化、2Qの開発製品関連での工事着工遅れなどが影響し減益

親会社株主に帰属する当期純利益 Δ 7億49百万円 [前期 Δ 4億91百万円]

1Qは新型コロナウイルス感染症による損失、2Qは海外子会社の譲渡完了に伴う関係会社整理損を特別損失に計上

1-3. 2021年3月期第2四半期 CF概要

営業活動：当期純損失を計上するも減価償却費の影響等により収入となる

投資活動：設備投資の抑制に加えて、中国スチールコード事業拠点の売却収入計上

財務活動：子会社の第三者割当増資等

(金額：百万円)

	2020年3月期第2四半期	2021年3月期第2四半期
現金及び現金同等物の期首残高	3,308	6,259
営業活動によるキャッシュ・フロー	△43	214
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,073	△181
フリー・キャッシュ・フロー	△1,116	33
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,866	12
その他（為替換算差・新規連結に伴う増減）	66	1
現金及び現金同等物の期末残高	5,124	6,305

1-4. 2021年3月期第2四半期 設備投資の状況

2021年3月期第2四半期
設備投資額

1,243百万円
(前年同期比△164百万円)

主な投資

スチールコード北上工場 生産性向上投資	3.6億円
鋼索鋼線土浦工場 維持更新投資	2.6億円
研究所 設備投資	1.2億円
その他維持更新投資など	5.0億円

1-5. 2021年3月期通期業績・配当見通し

- 2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの影響による需要減が底を打ち回復基調にあり、下半期黒字化を見込んでおります
- しかし、世界的な感染再拡大の懸念など、特に海外事業において先行き不透明な状況が続いていることから、引き続き未定としております
- 今後、業績予想が可能となった段階で速やかに公表いたします

年 度	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期 予定
配 当(年度当り)	40.0円/株	0.0円/株	—
配当性向(連結)	420.4%	—	—

1. 2021年3月期第2四半期決算概要

2. セグメント別の状況

3. 成長戦略の進捗

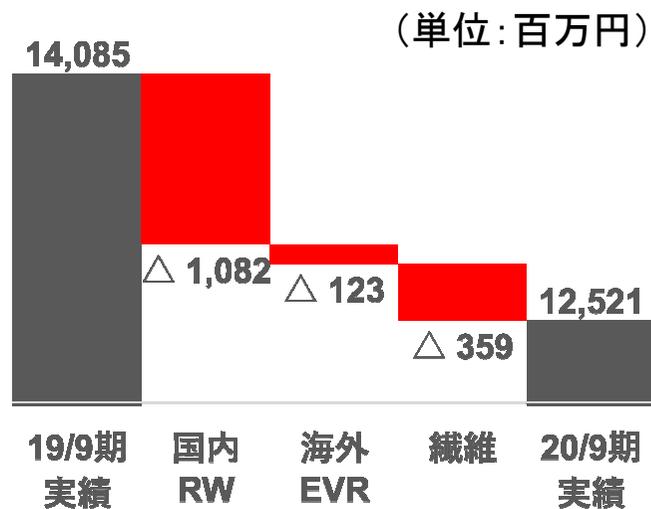
2-1. セグメント別実績

(金額:百万円)

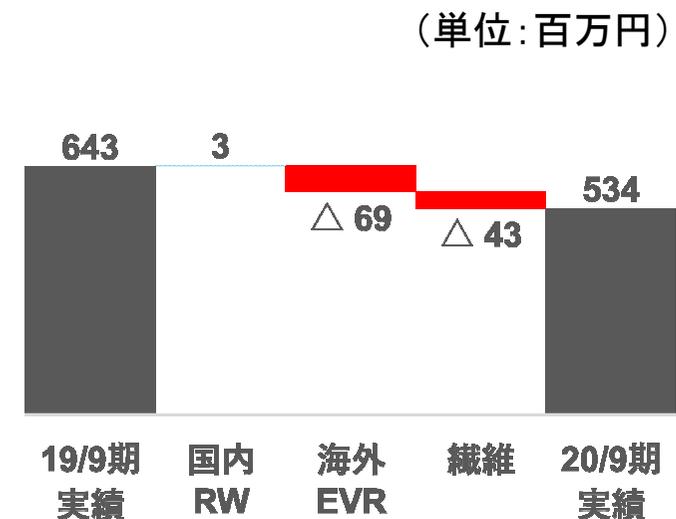
	2020年3月期第2四半期		2021年3月期第2四半期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線	14,085	643	12,521	534	△1,564	△109
スチールコード	5,131	△715	3,342	△868	△1,789	△153
開発製品	6,593	△478	6,031	△763	△562	△285
産業機械	2,304	221	1,455	△41	△849	△262
エネルギー 不動産	2,864	260	2,237	270	△627	+10
合計	30,979	△67	25,588	△867	△5,391	△800

2-1. 鋼索鋼線セグメント(1/3):概況

- 国内向けは減収も、海外橋梁向け鋼線の生産増、経費削減により前期並みの利益を確保
- 繊維ロープはコロナ影響により陸上・開発向けが減少し減収減益



売上高



営業利益

2-1. 鋼索鋼線セグメント(2/3):販売先業種別概況

業種によりまだら模様も、全体的に底打ち感がある



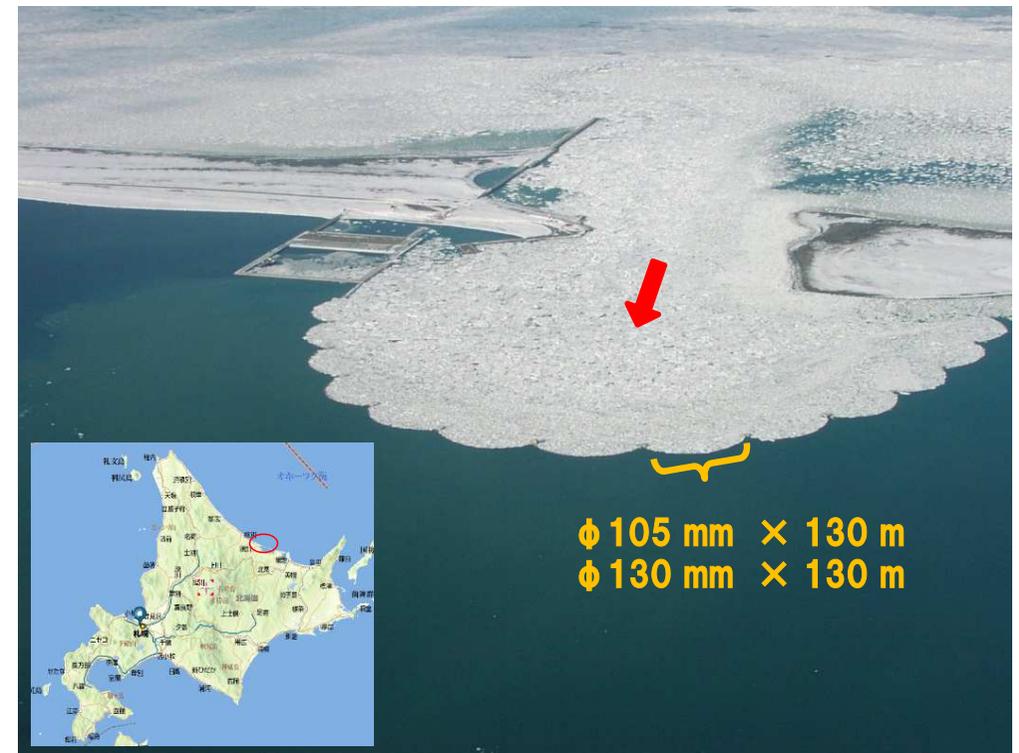
- エレベーターロープ
国内需要は建設現場の休業により需要減も回復傾向
中国市場は回復から増産に転じている
- 鉄鋼向けロープ
自動車の需要回復で高炉の再稼働が見込まれる
- 鋼線
テレワーク対応の通信網強化に関連する需要増があり、底堅く推移している
- 繊維ロープ
アイスブーム(※後述)の交換、洋上風力関連などプロジェクトものの需要があり、回復が見込まれる

2-1. 鋼索鋼線セグメント(3/3):トピックス

サロマ湖の環境と養殖施設を守るアイスブーム

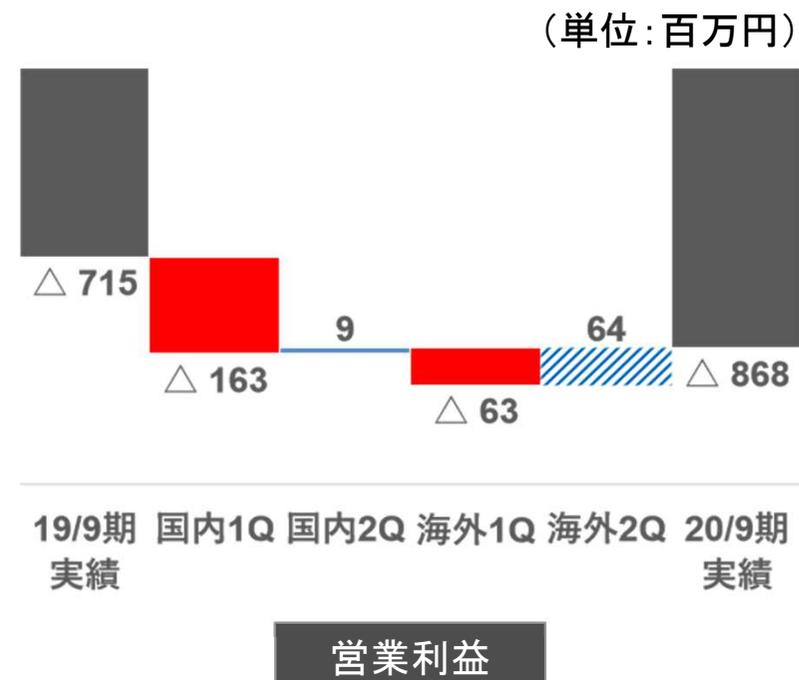
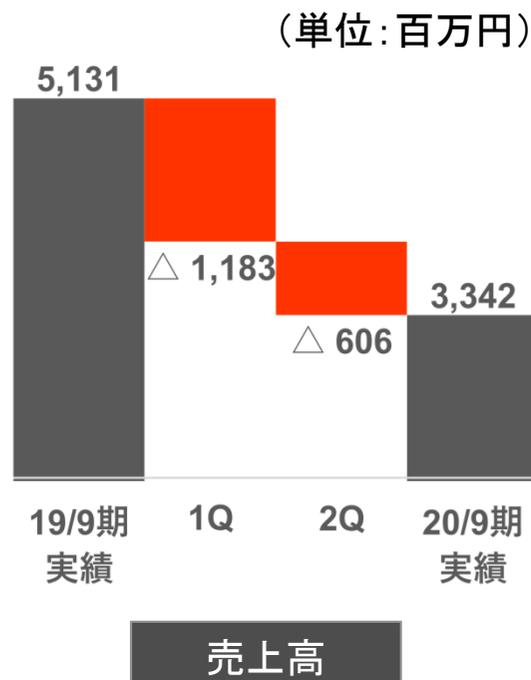


- アイスブームとは、潮力、波力、風力、氷圧力等に耐えうる構造を持ち、氷の移動を制御する施設(主に内陸河川の氷盤保護用)
- サロマ湖のアイスブームは、オホーツク海からの流氷の流入を防ぐもので、当用途では世界初
- 総長1,690mと、設置規模も類を見ない
- コンクリート建造物に比して環境負荷は小さいが、効果は遜色なく、ホタテ養殖の発展に寄与



2-2. スチールコードセグメント(1/3):概況

- 国内事業は自動車業界のコロナ影響も底を打ち回復基調にあるものの、1Qの減少大きく、減収減益
- 海外事業は海外子会社の譲渡により、損失止まるも、上期は操業停止に伴う費用計上し、収益改善効果は下期から発現
- 上期は前期並損益、下期以降は収益底上げ



2-2. スチールコードセグメント(2/3):販売概況

国内自動車生産に支えられタイヤコード回復、第3四半期は高稼働

- 1Qは大幅減も、2Qより販売が回復
- 要因は、
 - ✓ 7月以降の自動車増産による新車用タイヤ販売増加
 - ✓ 3密回避策としての自動車利用増加
(交換用タイヤ需要増加)
 - ✓ 9月以降は寒冬予想に対応した冬用タイヤ生産の増加
- 足元の収益を重視し、稼働率は高位安定
- 収益改善計画(マスタープラン)は、コロナ禍影響で新設備(海外製)の導入に遅れがあるが、2021年度の黒字化に向けて投資を継続中

2-2. スチールコードセグメント(3/3):トピックス

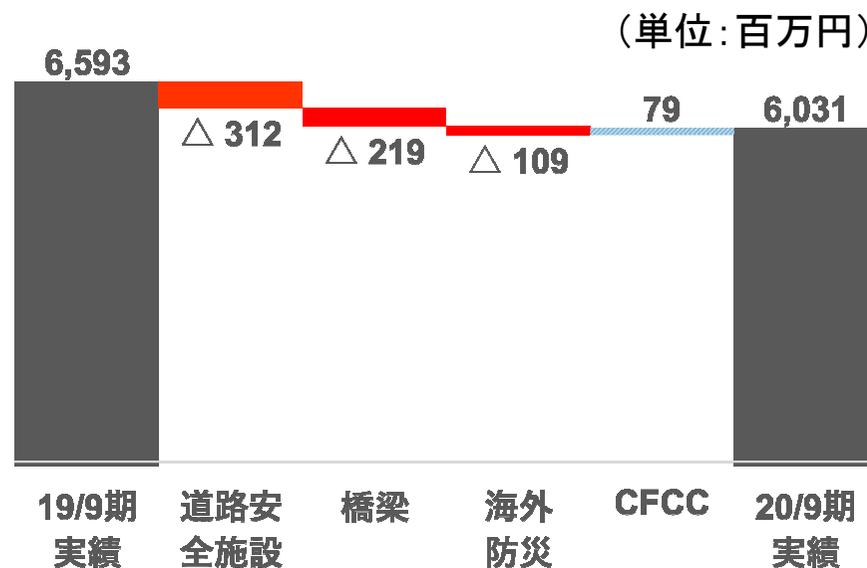
海外子会社譲渡完了

- 当社子会社である東京製綱海外事業投資株式会社、及びその100%子会社である東京製綱(常州)有限公司を、中国の大連光伸企業集団有限公司へ譲渡(※既報)
- 当該譲渡に伴う売却益、並びに連結除外に伴う為替換算調整勘定の取崩損をネットし、「関係会社整理損」として138百万円を特別損失に計上

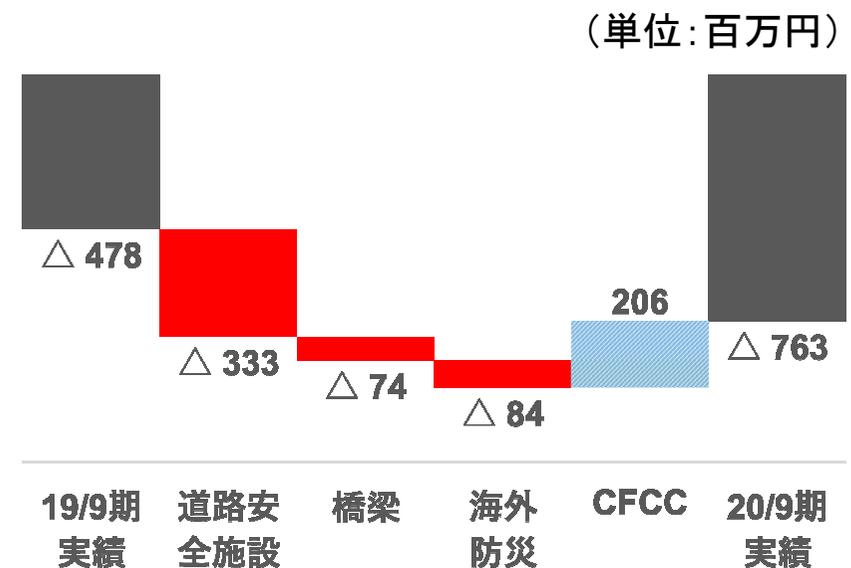
譲渡完了により不採算部門が無くなり、
下期以降の収益は底上げされ、キャッシュフローも改善

2-3. 開発製品セグメント(1/3):概況

- コロナ禍により、道路安全施設の工事遅延が全国的に発生、下期への期ズレにより減収減益
- CFCC事業は売上増加及びコスト削減により収益改善



売上高



営業利益

2-3. 開発製品セグメント(2/3):販売概況

国内は下期へズレ込み、海外はCFCC土木案件受注(※後述)

- 道路安全施設
 - ✓ コロナ禍による発注遅れ、及び3密回避対策のための工事着工遅れにより、下期への期ズレが発生
 - ✓ 受注残は前期比で増加しており、下期でキャッチアップ可能
- CFCC・海外防災
 - ✓ CFCC土木は、米国にて橋梁の緊張材大型案件を受注
 - ✓ CFCC電線、海外防災製品は、コロナ禍の影響甚大
(各国での入札中断、遅延、渡航制限による営業活動停止)
 - ✓ 2Qより販売が回復しつつある地域もあり、徐々に改善傾向

2-3. 開発製品セグメント(3/3):トピックス

落石・土砂対策対応製品開発



- 近年の豪雨災害を踏まえ、土砂崩壊対策用S・シールドを開発
- 実証実験が7月末で完了しており今後の受注・設計織込に繋げる

製品の外観



実験の様子



2-4. 産業機械セグメント:概況

主要顧客の操業・投資回復により受注回復

- 粉末冶金製品
 - ✓ 自動車業界の操業回復に合わせ、足元では受注が回復
- 産業機械
 - ✓ 石油化学業界（自動車向け）で一時延期となっていた設備投資計画が回復

セグメント実績

（金額：百万円）

	2020年3月期第2四半期		2021年3月期第2四半期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
産業機械	2,304	221	1,455	△41	△849	△262

2-5. エネルギー・不動産セグメント:概況

主要顧客の操業・投資回復により受注回復

- エネルギー
 - ✓ 原油価格の低下に伴い売上高減少も、収益には影響無し
 - ✓ コロナ禍により、一般家庭向けでは巣ごもり需要がありむしろ好調も、産業向けでは石油製品・ガス共に販売数量が減少
- 不動産
 - ✓ 一部不動産収入の減少はあるが、巣ごもり需要により利益は維持

セグメント実績

(金額:百万円)

	2020年3月期第2四半期		2021年3月期第2四半期		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エネルギー不動産	2,864	260	2,237	270	△627	10

1. 2021年3月期第2四半期決算概要

2. セグメント別の状況

3. 成長戦略の進捗

3-1. 成長戦略の進捗:CFCC土木の受注(1/7)

米国最大級のプロジェクト(ハンプトンロードブリッジトンネル拡張事業)にCFCCが採用決定



ハンプトンロードブリッジトンネル拡張事業(HRBT)とは

- 施主:バージニア州

バージニア州のハンプトンとノーフォークを16kmに渡って結ぶ海上道路を、2車線から4車線に大幅拡張する事業

- 総工費:38億ドル

同州史上最大かつ米国内で予定されているインフラプロジェクトの中でも最大規模の事業

- 工期:2020年~2025年11月

最先端技術が結集された2020年代初頭を代表する事業

3-1. 成長戦略の進捗:CFCC土木の受注(2/7)

ハンプトンロードブリッジトンネル拡張事業の対象区間



バージニア州



ハンプトン周辺



対象の道路

3-1. 成長戦略の進捗:CFCC土木の受注(3/7)

CFCCの優位性が評価されパイル・ビーム双方の補強材として採用



3-1. 成長戦略の進捗:CFCC土木の受注(4/7)

CFCCの優位性が評価されパイル・ビーム双方の補強材として採用

パイルの外観(他事例)



3-1. 成長戦略の進捗:CFCC土木の受注(5/7)

CFCCの優位性が評価されパイル・ビーム双方の補強材として採用

ビームの外観(他事例)



3-1. 成長戦略の進捗:CFCC土木の受注(6/7)

CFCCの優位性が評価されパイル・ビーム双方の補強材として採用

- 海上という立地条件に、CFCCが長所である以下4点が合致
 - ①強度、②耐腐食性、③軽量性、④ライフサイクルコスト
- パイル、ビームの双方に採用されたことにより
 - ✓ 利用されるCFCCの総延長:約5,500km
 - ✓ 販売見込額:38百万USD(約40億円)前後

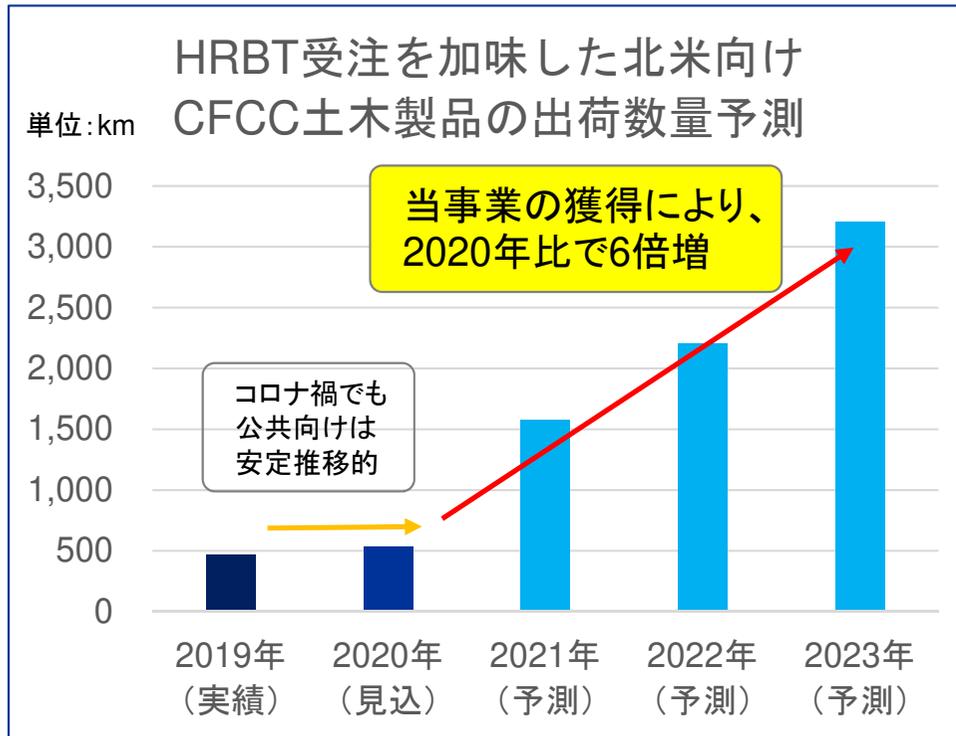
ハンプトンロードブリッジトンネル拡張事業(完成イメージ)



出所)ハンプトンロードブリッジトンネル拡張事業公式サイト <https://www.hrbtexpansion.org/>

3-1. 成長戦略の進捗:CFCC土木の受注(7/7)

HRBT受注の意義は米国展開の文字通りの橋頭保となりえる点



全米での普及に向けた3つの追風

環境保護とライフサイクルコスト重視

深刻化するインフラ老朽化

バイデン新大統領の行動計画

海辺の塩害地域や融雪剤を多用する降雪地域を抱える
各州を中心に検討が加速し、等比級数的な受注拡大が期待される

3-2. 成長戦略の進捗:SDGsと成長戦略の両立(1/2)

企業と社会の持続的な成長の追求



土木用途CFCC®



アイスブーム

エレベーターロープ



土砂崩落対策用S・シールド



3-2. 成長戦略の進捗:SDGsと成長戦略の両立(2/2)

企業と社会の持続的な成長の追求

- 当社グループは、更なる技術革新やイノベーションを通じた安全安心な社会インフラの構築、気候変動への対応、自然災害の減災・防災、地球環境保全等への取り組みをより一層加速し、SDGs達成と社会の持続的発展に貢献してまいります
- SDGsの17のゴールは相互に関連しており、当社グループの事業活動はその全てに関連すると考えています
- とりわけ次の6つのゴール達成に大きく貢献できると考えています

事業活動を通じて重点的に取り組むSDGs



本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込みその他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。